

のびのび広場の池の活用について

伊勢原市立大山小学校

1. 実践の内容

本校は、丹沢山麓のふもとに位置する全校児童 45 名の小規模校である。周りは豊かな自然に囲まれている。本校の校舎前には子ども達に親しまれている、通称、のびのび広場と呼ばれる場所がある。のびのび広場から校舎玄関に上がる階段横には、大きな岩や木、石碑があり、その目の前に小さな池がある。水源は学校裏手の山中にある小川をせき止めた場所で、3か所の水道弁を経て水が流れ込むようになっている。



この池は、年間を通して様々な生き物が集まり、ビオトープとしての役割を果たしている。例えば、冬の終わり頃から春先にかけてはカエルの卵がたくさん見られる。5・6月頃にはオタマジャクシになって、所狭しと泳いでいる。その他に、アメンボやヤゴも見られ、小さなカニもシャカシャカ歩いている。



子ども達は、1年生の頃からこの池の様子をよく観察しているので、そこに生息する生き物の生態系を彼らなりによく把握している。特に低学年の子ども達は、毎朝のように池を覗いては「今日は水が少ないね。大丈夫かな。」「あそこにタニシ(カワニナ)がいるよ。」などとつぶやいている。

また、学習においても重要な役割を果たしている。1・2年生の生活科では、プール清掃前に救出したオタマジャクシを池に放してその成長を観察している。3～6年生の理科では、春探しや夏探しなどとして自然観察の対象になっている。



2. 実践の成果と今後の課題

年間を通して、小さな生き物たちのありのままの姿を身近に観察できるこの池はとても重宝されている。子ども達は、この池の様子を見ることを日常の楽しみの一つにしている。

しかし、水源の状態により、池に水が溜まらない渇水期もある。水源の桶周辺には落ち葉が溜まりやすく、水道管が詰まってしまう原因にもなっている。水源の掃除を定期的に行うことは、本校の池への水流を上手に生かす上で必須の課題であるといえる。

子ども達にとって、自然の物語がギュッと詰まったこの小さな池は、生き物と触れ合える貴重な場所となっている。今後もその意義を確認しながら、水源の確保に努めていきたい。

